

1. 調査報告概要表

作成日 2007年7月20日

【評価実施概要】

事業所番号	2172000545
法人名	有限会社 ケアコスモス
事業所名	グループホーム ほのぼの2号館
所在地 (電話番号)	岐阜県中津川市福岡3441番地の1 (電 話) 0573-72-3300
評価機関名	NPO法人 ぎふ住民福祉研究会
所在地	岐阜県羽島市竹鼻町狐穴719-1
訪問調査日	平成19年6月26日

【情報提供票より】(平成19年 5月24日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16年 7月12日
ユニット数	1 ユニット
職員数	9 人
利用定員数計	9 人
常勤 8人, 非常勤 0人, 常勤換算 7.5人	

(2) 建物概要

建物構造	木造瓦葺平屋
	1 階建ての 1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	50,000 円	その他の経費(月額)	33,600 円	
敷 金	有() 円	(無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有() 円	有りの場合 償却の有無	有(無)	
食材料費	朝食	300 円	昼食	300 円
	夕食	300 円	おやつ	200 円
	または1日当たり	1, 100円		

(4) 利用者の概要(5月24日現在)

利用者人数	9 名	男性	0 名	女性	9 名
要介護1	0 名	要介護2	5 名		
要介護3	3 名	要介護4	1 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 87.6 歳	最低 73 歳	最高 99 歳		

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	丹羽内科ペインクリニック、赤坂歯科医院
---------	---------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

この施設は、周りを緑に囲まれた自然豊かな場所にあり、内部もふんだんに木材が使用され、自然と一体感のある作りになっている。施設内は吹き抜けの広い共用スペースがあり、入居者は自分たちのペースでゆったりと自由に過ごしている。また、管理者(経営者)をはじめ職員全員が、理念と信念を持って、一人ひとりに寄り添うケアに取り組んでいる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価結果に基づき、入居者が自分で金銭を使えるように支援する取り組みが行われるようになってきている。また、行政との関わりについても、新たに職員がキャラバンメイトとして認知症サポーター養成講座の講師として派遣されるなど、その関係が強化されている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価を職員個々の振り返りにつなげるためにも、全員で取り組み、全員の意見が反映されることが望まれる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は、民生委員、自治会役員等で構成されている。会議で出された「入居者を買い物に連れて行って欲しい」、「家族会で旅行に行きたい」という要望を実現している。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	入居者の近況を面会時に伝えるとともに、家族の要望等を聞き取るようにしている(面会の少ない家族の場合は、手紙や電話等を利用している)。また、年に3~4回家族会を開いており、その場で意見や要望を出してもらっている。なお、家族からの要望等については、ミーティング等で検討した上で、実現可能なものについては取り組むようにしている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	立地条件(周囲に住宅等が少ない)から難しい面もあるが、地元の産業祭に参加するといった方法で、徐々に地域とのつながりを深めている。今後は、日常的な交流が図れるよう、出向くのが難しいようであれば、施設を利用してもらうことで、地域の人たちに来てもらえるような取り組みを図ることが望まれる。

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	施設の開設時にスタッフで考えた理念(隣に座る・その人を知る・ゆっくりと穏やかに)を、ミーティングやカンファレンスの際に取り上げることで、日頃のケアが理念に基づいて行われているかという振り返りを行っている。	<input type="radio"/>	平成18年度からは「地域密着型サービス」へ移行したことを踏まえ、開設時のようにスタッフで理念について再度検討していただきたい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	事務所に理念を掲げているほか、毎日のミーティングや毎月のカンファレンス場で、常に理念に基づいた実践ができているか振り返っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地元の産業祭で入居者の作成した製品を販売したり、施設の紹介等を行っている。	<input type="radio"/>	単発の行事ではなく、日常的に地域との交流ができるような工夫が望まれる。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の外部評価における要改善点については、改善の取り組みがみられた。	<input type="radio"/>	自己評価については、管理者だけで行うのではなく、職員全員で取り組むことで、自分たちの実践の振り返りにつなげていって欲しい。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は定期的開催されており、事業所の取り組みが報告されている。また、会議の場で出された意見に基づいて、新たな取り組みを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	職員がキャラバンメイトとして、認知症サポーター養成講座の講師を依頼されたり、地区のまちづくりの委員として委嘱され、地域住民に認知症に対する理解を深めてもらい、協力を得られるように働きかけている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会を利用して家族に利用者の暮らしぶりを伝えているが、面会の少ない家族には手紙や電話等で報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年に3～4回家族会を開き、家族の意見や要望を聞く機会を設けている。なお、家族からの要望に応じて、改善の取り組みが行われている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	開設以来大きな異動はなかったが、最近職員の退職と新規採用が行われたため、毎日のミーティングで入居者への影響を減らすための話し合いがもたれており、大きな混乱は見られない。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修には希望する人が、なるべく参加できるようにしている。	○	年間の研修計画を立て、計画的に研修が受けられる体制を整えることが望まれる。また、外部研修の情報を全職員が周知し、自己研鑽の意欲を高めるような働きかけをして欲しい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内の介護サービス事業者で組織された団体に加入し、その中のグループホームの部会に参加していることから、日常的に他のグループホームとの交流や情報交換が行われている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者と家族が納得した上で入居できるよう、体験入居(1～2ヶ月)してもらい、馴染みの関係をつくったうえで入居してもらっている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、介護する側と介護される側という関係ではなく、「隣に座る」「その人を知る」「ゆっくりと穏やかに」という理念に基づき、まず利用者を理解するというケアを実践している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は、入居者の訴えや話をよく聴くということを心がけており、入居者の意向や希望は、入居者個々に作られた「気づきノート」に記録され、活用されている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	皆でケアプランを作成するという方針の基で、ケアプランはカンファレンスで出された職員の意見をケアマネジャーがまとめるという方法で作成されている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月ごとにモニタリングを行い家族に説明、報告をしているが、大きな変化が生じた場合は、随時見直しを行うこととしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	食事の実費だけで託老所のような利用を地域の高齢者にしてもらおうよう、地元の民生委員を通じて働きかけている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居後も家族によるかかりつけ医の受診をお願いしていたが、希望者については協力医療機関に往診してもらっている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時ではなく、入居者がいない状況に家族が慣れた頃に終末期の意向を確認するようにしている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入浴時には一人になれるように少し離れた場所で見守るといった基本的なことが実践されており、特に入居者の誇りを傷つけないケアを大切にしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者は家事に取り組んだり、気の合う人同士でおしゃべりを楽しむなどして過ごしており、職員の業務を優先させる様子は見られなかった。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の意向に沿って献立を考えたり、一緒に調理をし、会話を楽しみながら食事をとっている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週に2回(夏場は3回)の入浴を原則としているが、希望があれば予定日以外でも入浴する事ができる。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者は、編み物や家庭菜園といった趣味や、調理や食器洗いといった活動を、一人ひとりの能力や希望に応じて行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	週に1~2回はドライブや散歩に出かけ、施設内だけで過ごさないようにしており、真夏や真冬でも行き先を工夫することで外出している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関、居室とも日中は鍵はかけられていない。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年1回消防署の協力を得て避難訓練を行っている。	○	避難訓練は、地域の人々にも協力が得られるように参加を働きかけて欲しい。また、火災以外の災害(地震や水害等)を想定した訓練も必要と思われる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体調の悪い入居者については、食事や水分の摂取量を記録している。	○	体調が悪いときだけでなく、毎日の(できれば毎食の)食事・水分の摂取量を記録し、栄養摂取や水分確保ができていないか把握して欲しい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用スペースは広くゆとりがあるため、入居者それぞれが生活や活動の場面に応じて利用できるようになっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に馴染みの家具や思い出の品を持ち込んでもらうようにしており、居室は利用者の個性や好みによる違いが見られた。		